

コロナの経験を踏まえたSDGs達成へのカギとなる12の方策 — グリーンで、多様性を力に変えるリカバリーに向けて —

コロナ禍は、持続可能な社会システムの構築が必須かつ喫緊の課題であることを改めて明らかにした。とりわけ、経済一辺倒の成長という考えを一新し、経済、社会、環境の持続性を念頭に、これら三側面におけるバランスの取れた成長を実現しない限り、21世紀の人類の繁栄はあり得ないことを浮き彫りにした。これを踏まえると、経済、社会、環境という三側面を包括的かつ均等に含み、あるべき2030年の形を示したSDGsは、コロナの経験を踏まえた世界の発展の格好の道しるべとなる。

以下に掲げた12の方策は、SDGsを今後の世界の道しるべと捉えたときに、カギとなる戦略である。それは、慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボが推進する研究コンソーシアム「xSDG コンソーシアム」における「コロナの経験を踏まえたSDGsのあり方の変容」に関する検討結果に基づき、そのエッセンスをまとめたものである。検討は、2020年度を通じて、同コンソーシアムのパートナーとなる研究者、企業、行政、自治体等の関係者がオンラインでワークショップを重ねて行われた。本書の最後に掲載したように、パートナーとなる企業や団体のカバーする領域は極めて多様性に富み、それぞれの立場から本気でSDGsの達成を考えている主体ばかりである。この多様性と本気度が、本書の最大の強みである。

とりわけ留意したのは、17目標169ターゲットを一体として捉えることで持続可能な社会が実現できるという観点である。

これらの諸点に留意して戦略を立てることが、コロナの先の持続可能な社会における各分野でのリーダーシップ発揮につながるものとなるだろう。

2021年3月

xSDG・ラボ、xSDG・コンソーシアム

代表 蟹江憲史